

令和5年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金
(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)
分担研究報告書

HPV ワクチンなどのワクチン接種後に生じる種々の症状についての調査と
その対応方法に関する研究

研究分担者 福島県立医科大学・保健科学部・学部長 矢吹 省司

研究要旨

HPV ワクチンの積極勧奨が再開されたのちの副反応の頻度や内容を明らかにすることを目的とした。東北6県の主となる協力医療機関及び各県行政担当者と合同会議を実施し、ワクチン接種後に副反応が疑われる症状を訴えた患者について、報告と情報共有を行った。各県行政からの報告内訳は相談件数3件、副反応疑い報告が5件であった。医療機関からの症例件数は4例であった。HPV ワクチン副反応の報告数は、11年前と比して激減している。しかし、少数ながら HPV ワクチン副反応を呈する症例は存在する。そして、その症状は痛みを始めとする多彩な症状であった。

A. 研究目的

HPV ワクチンなどのワクチン接種後に生じる多様な症状に対して、対応策や治療方法は確立されていない。ワクチン接種後の副反応を訴える患者に対する対応・治療法の分析を行い、これまでのマニュアルのブラッシュアップを図ることを最終的な目的とする。本研究では、HPV ワクチンの積極勧奨が再開されたのちの副反応の頻度や内容を明らかにすることとする。

B. 研究方法

HPV ワクチンの予防接種に関する地域ブロック拠点病院整備事業において、東北地区の拠点病院となった福島医大病院を中心に、東北6県の主となる協力医療機関及び各県行政担当者と合同会議を実施し、ワクチン接種後に副反応が疑われる症状を訴えた患者について、報告と情報共有を行った。期間は令和5年4月～令和6年3月、頻度は月1回、開催方法はWeb会議システムを利用した。報告内容は、患者の性別・年齢・接種日・接種後に訴えた症状、経過等とした。ワクチンの接種状況と行政への相談、副反応報告については行政担当者が、ワクチン接種後の副反応と疑われる症状を呈した患者については、診療に

あたった医師、あるいは接種機関から報告や相談を受け、患者状況を共有した協力医療機関の医師が会議で報告を行った。

(倫理面への配慮)

本研究は福島県立医科大学一般倫理委員会の承認を得て実施している。調査した内容を報告、共有する際には個人を特定できる内容は排除したうえで実施した。

C. 研究結果

各県行政からの報告内訳は相談件数3件(表1)、副反応疑い報告が5件(表2)であった。医療機関からの症例件数は4例(表3)であった。症状や経過詳細は表1～3(別添)に示した通りである。ワクチン接種後の患者が訴える症状は、痛み(頭、腕、接種部位など)、痺れ、発熱、腫れなど多様であり、意識消失や食思不振・嘔吐、顔面神経麻痺などを訴えた症例もあった。訴えまでの期間はワクチン接種直後から1か月後の範囲であった。東北地区では4例が副反応評価のため協力医療機関を受診し、症例報告された。内訳は、慢性疼痛センターが2件、整形外科が1件、小児科・精神科が1件であった。経過は、症状消失まで最短で30分、最長で3か月、を要

していた。

D. 考察

HPV ワクチンの積極勧奨が、再開された。平成 25 年（2013 年）の積極勧奨が中止になった頃の HPV ワクチン副反応の報告に比べると、報告数は激減している。しかし、少数ながら HPV ワクチン副反応を呈する症例は存在する。そして、その症状は痛みを始めとする多彩な症状であった。報告数が激減した理由としては、積極勧奨再開の前に、厚労省や医師会を始めとした様々な関与機関が、HPV ワクチンの重要性や副反応の情報を広く啓発してくれたためではないかと考えた。

E. 結論

HPV ワクチン副反応の報告数は、11 年前と比して激減している。しかし、少数ながら HPV ワクチン副反応を呈する症例は存在する。そして、その症状は痛みを始めとする多彩な症状である。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表
矢吹省司：HPV ワクチン接種後に生じる症状について。福島県医師会 HPV ワクチン接種推進講演会，2024 年 2 月 11 日、郡山市

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他
なし

(別添 表1～3)

表1 相談報告 (行政より)

No	性別	年齢	相談内容	症状	対応	その後経過
1	女	共有なし	ワクチン接種後の症状への相談	頭痛、腕の筋肉痛、熱っぽさ	医療機関の受診を勧め、その後も気になる点があれば再度相談するよう案内	その後相談なし
2	女	共有なし	救済制度について	接種後10日ほどで顔面神経麻痺	厚労省へ申請 (HPV ワクチンの副反応なのか確証はないということで完全に排除できないため)	受診後申請に至る。3か月ほどで症状は完治。
3	女	共有なし	ワクチン接種後の症状への相談	発熱	接種医への連絡を案内し相談は終了	その後相談なし

表2 副反応疑い報告 (行政より)

No	性別	年齢	状況	症状	経過	その後経過
1	女	18歳	9価ワクチン接種直後	左足太ももからくるぶしあたりまでの痺れ、左手の痺れ	30分程度で症状改善により経過観察。翌日医療機関を受診したが、すでに痺れ等は消失。	その後受診したとの報告なし
2	女	共有なし	9価接種より1週間後	接種部の腫れ、痛みその後両手足の指の第一関節部の痺れ、両膝に痛み	医師によると風邪症状などがあつたわけではないため副反応ではないかとのこと。	その後報告なし
3	女	共有なし	9価ワクチン接種直後	意識消失	1時間ほど様子をみて帰宅。	後日、迷走神経反射との報告。
4	女	共有なし	接種後	予防接種に伴う一般的な発熱・炎症等	秋田医大病院より情報提供。接種医からの紹介での受診。	治癒の報告有。
5	女	14歳	9価ワクチン接種後3週間程度	食思不振、嘔吐、下肢の筋力低下	副反応疑い報告を市町村と共有し、保健師から家族と連絡を取り経過を確認している。	回復の確認済。

表3 症例報告（協力機関医師による）

No	性別	年齢	接種医	症状発症後の受診科	接種状況	発症時期	症状	対応	見解	経過報告・予後
1	女	25	小児科	慢性疼痛センター	ジルガードキャッチアップ定期接種2回目	接種2日後	左上肢の痛みによる拳上困難	問診 心理評価 身体機能評価 リハビリ	心理社会的要因の可能性	タリージェの内服でしびれ改善。受診3か月終診。3回目接種はせず。
2	女	12	小児科	慢性疼痛センター	ジルガード初回接種	直後	ワクチン接種箇所の痛み	問診	心理社会的要因の可能性 (針刺しによるけがの痛みの再燃?)	カロナール内服・ロキソプロフェンテープの処方により痛み消失。結果1度の受診のみ。2回目接種予定。
3	女	12	小児科	整形外科	ジルガード初回接種	接種1週間後	両手のしびれ、感覚異常、両膝関節痛、両側足趾のしびれ、接種部の痛み	問診	HADSと破局的思考が高値	プレガバリン・ロキソプロフェンNa処方。30週後の受診では両手しびれ・感覚異常は改善。経過観察。
4	女	14	近医 (診療科名未確認)	小児科 精神科	ジルガード9初回接種	接種1か月後	嘔気嘔吐、食思不振。右下肢感覚鈍麻、膝蓋腱反射亢進。下肢筋力低下	問診・ MRI・身体機能評価	急性散在性脳脊髄炎 多発性硬化症 抗MOG抗体関連疾患	ステロイドパルス療法・PSL内服・リハビリにより歩行障害改善。23週病前レベルまで回復。